

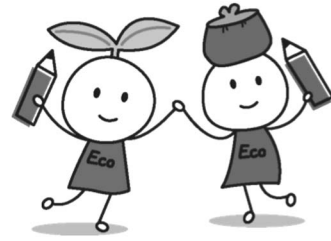
研究室紹介



KAWASAKI CITY

川崎市環境総合研究所

地域環境・公害監視課



川崎市のキャラクター
エコちゃんず

◎環境総合研究所とは…

川崎市環境総合研究所は、平成25年2月、公害研究所、公害監視センター、環境技術情報センターの機能を再編・統合し、環境分野における地域活性化と国際社会の環境問題の解決に貢献する新たな研究拠点として開設されました。

羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点に整備された、川崎生命科学・環境研究センター（通称：LiSE）構内にて業務を進めています。

国連環境計画（UNEP）、国立環境研究所、地球環境戦略研究機関（IGES）、大学などの外部研究機関、優れた環境技術を有する市内企業と連携しながら、環境に関する総合的な研究を行っています。



川崎市環境総合研究所（LiSE外観）

◎当課の業務

当課は3つの係から構成されます。大気環境研究担当ではPM_{2.5}、アスベスト、酸性雨、降下ばいじんに関する調査を、水環境研究担当では工場・事業所排水の水質に関する調査を、公害監視担当では大気環境の常時監視測定、放射線測定を行っています。

PM_{2.5}業務には特に力を入れており、成分分析調査や常時監視体制の充実を図っています。中国でのPM_{2.5}高濃度汚染が話題になり、市民の方々の関心が高まっていることから、PM_{2.5}を含む大気環境データを、テレビ神奈川のデータ放送によりリアルタイムで御覧いただけるシステムを構築しました。これは、神奈川県内で初めての取組として、平成25年3月27日に開始したものです。また、PM_{2.5}成分分析では、丘陵部には住宅地が広がり、臨海部は大規模な重工業地帯という川崎市ならではの特徴を生かし、地域ごとの特性の解明や発生源寄与の解析にも取り組んでいます。

当課は若手職員が多く、面倒見の良い先輩が多いことから、和気あいあいとした雰囲気の中、業務に励んでいます。人の入れ替わりが多く、技術の蓄積や継承が課題ではありますが、若手ならではの抜群のチームワークを発揮しつつ、積極的に研究に取り組んでいきたいと思っております。

（大気環境研究担当 鈴木義浩）



屋上から羽田空港の滑走路が見えます！



分析装置も充実しました